

紀南教会瓦版

発行元
紀南キリスト教会

和歌山県田辺市
下屋敷町80
TEL/FAX0739-25-1191
E-Mail:kinan-ch@
beach.ocn.ne.jp
H・P: http://www.kinan-
ch.org/

早二月が終わろうとしています。「光陰矢のごとし」と言いますが、年齢と共に、この言葉を実感します。入学、進学、就職と新しい歩みの時を控えて希望の季でもあります。健康でそれぞれの道を歩んで欲しいと願っています。皆さんの歩みの上に、主の祝福を祈ります。

編集員一同



病める時

私にSちゃんが、瓦版と絵手紙を送ってくれていました。私は三年前に手術をしたのですが、衰弱が激しく、

七ヶ月半余り入院し、そして退院をしたのですが、退院は奇跡的なことだったそうです。

自分の部屋の中ぐらいい一人で歩けるようになっていたのと、自営業の長女が生活の全般と、休日や仕事帰りに寄ってくれる娘も居て、羨ましがられるくらいですが、ちよつと動いたり喋っても息切れし疲れまです。「生きていくのはしんどいことかなあ」と、思ってしまう時があります。何人ものALSのような

大変な病気の方に見聞きしているし、Sちゃんだって若い頃から難病と付き合っておられます。私がこぼすとユーモアたっぷりのメールを送ってくれたりして、私よりズツと年下のSちゃんに、大いに信仰を伴った学びをさせていただいています。



瓦版に寄稿されている先生方や、皆さんからも恵みをいただき感謝しています。

柑

『つれづれの記』

今日は、久しぶりに郷の母を訪ね、戸外に連れ出してドライブすることにしました。

母は、もうずいぶん長く俳句を趣味としていて、少しでも自然の中から、俳句を作れたらとの思いでの誘いである。車中で母の思い出話に付き合う。バックミュージックを聴きながら、相づちを打つ、ユーモアとウイットに富んだ母は、他人を笑わせるのが上手である。外の景色を見つ、私たちの子供の頃のことや、戦争体験のこと女学校

の学徒動員の話を。今年の初めには、孫子が集まり、母の米寿(八十八歳)のお祝いをした。鍋を囲み、毛糸の首巻きと寄せ書きのプレゼントを渡した。

二年前に、軽い脳梗塞を起こし入院して以来、故郷のケアハウスに、お世話になっている。母は二時間ほどして、ケアハウスに戻りました。

母の人生を省みると、戦争体験が色濃く残っている。学徒動員で、軍事機器(部品)を作ったり、中でも胸の熱くなるエピソードがある。

女学生だった母たちのもとに、明日特攻隊で出撃する数人の青年が訪ねてきたらしい。彼らが言うに「僕たちは明日発ちます。命を散らす前に、一度お話を聞きたかった。」と。どうやら、女学生を

遠目に、憧れを持っていたらしい。

男として結婚もせず女性とも縁のなかった男性のはかない願いだったのだろうか。そして翌日、上空を二回旋回して去って行った飛行機を見たらしい。

それから、平成の世になり、新聞に、母の戦争体験の記事が載り、それを見た知人の連絡で、不思議にもそのとき突撃しなかった青年の息子さんが、母を訪ねてきたらしい。

その息子さんは、大学の先生になられていて、「生前父が、『自分だけ特攻にいけなかったことを』恥じていた、と。仲間にはみな命を散らせた!。」と、そしてその方のお父さんは長く戦争のことは、口にしなかつたらしい。

母は、現在ケアハウスで、静かな余生を過ごしている。そして、今、戦争体験を伝えることが、大切だと思っているようだ。

母の生きているうちに、少しでも親孝行の真似事ができればと思う。

神様に今日も守られたことを、感謝しつつ床につく。

路傍の石

ナースコールのボタンを、何でここに置いてくれないんや。」「どうして分らないのや。ぼくが動けないのはわかってるやろ。愛は想像力や!」と妻にきつい言葉で言った。

胆道癌の手術から一夜明けてみると、改造人間か、とおもいきし姿。みぞおちからヘソを迂回して下腹部まで開腹、そこが60個以上上のホツキスの針で止められていた。また、体には鼻のチューブから尿管に挿入されたチューブまで、上から下まで10本以上の管があった。苦しい、眠れない、絶飲、絶食、鼻からのチューブのために声が出ない、

痛い、痛みのために体を動かす事が出来ない。術後がこれほど苦しいものとはつゆだに想像していなかった。

自由に動かせるのは両手だけ。その範囲内の物しか取れない。ナースコールのボタン、自動ベッドのリモコン、テレビのリモコン、すぐ近くにあっても取れない。何とも不自由なことか。

うちに私の手の届かない所において帰ってしまった。腹が立った。翌日妻が来た時にその怒りをぶつつけた。それが冒頭の言葉となった。しかし、妻は体が動けないことなど経験したことがないから、無意識のう

したことがなかった。ある時、大きな手術をした一人の姉妹を病室に訪問した。その姉妹は私にこう言った。「イエス様の十字架の苦しみはこんなものではない」と。

イエス様は違う。主は神でありながら、僕の姿をとり、私達の病を担い、痛みを負い、罪をその身に受けて下さった。十字架で手足を釘付けされ、苦しみの絶頂の中で、叫ばれた。

「父よ、彼らをおゆるし下さい。彼らは何をしているのか、分からないのです。」と。自分を十字架につけた人たちのゆるしを祈られた。苦しみの中で姉妹は主の十字架を仰いだ。私は妻に不満をぶつつけた。「愛は想像力や!」これはそのまま私に投げかけられている言葉である。

主よ、信仰のない私を憐れみたまえと祈るしかない。

紀南キリスト教会牧師 上山耕司

私もこれまで長期入院するような病氣らしい病氣を

ちにならただけで、愛は想像力だ、などと言われてもポカーンとするだけだった。

病氣の人、苦難の中にある人のそばに寄り添って、くことは難しい。けれども、

の苦しみに思いを馳せ、耐えていたのだった。私の言葉とはえらい違いである。また、その苦しみの大きさを言われたのであろうが、鈍い私には察することが出来なかった。

五月二四日・水

第六八回キリストの教会全国大会
(沖繩大会二〇一七年五月二四日、水、二六日、金)

七日〇〇 朝食
九・三〇 沖繩宣教アワー
証し 金城恵子姉(今泊)
名城敏子姉(今泊)
伊志嶺勲師(平良)
十一・三〇 フリータイム
(オフ・ショナル・フ・ロク、ラム)宣教教師集会(会場:宮里教会) 十三・〇〇、十五・〇〇
十九・〇〇 恵みの広場
二十一・〇〇 終了

五月二六日・金
五月二六日・金
七・〇〇 朝食
九・三〇 集会二
講師 中野卿代師(伊丹)
十一・〇〇 閉会式
十一・三〇 解散